

「夢と気—多元的世界観を持つ—」 名工大入学式での講演 2010.4 鈴木泰信 NTN 会長 (K34)

ごきそ 7~8 月号の記事から、ものの見方、考え方について少し意識を加えて整理し直した。

爆発する情報の中で、読者は(気分的にも)忙しい。「知識の構造化」を図り、新しい「集合知」として整理し、古典(論語など)のように 10 年後にも役に立つ情報としてホームページに残したい。

1. 心構え

- ・「とりあえず」はやめること。大学に入ったから、進路をリセットし、社会人としての資質アップの準備をして欲しい。
- ・「箸の持ち方」が気になるが、親の躰がこれに現れる。
- ・理系の I 型(専門分野にのみ関心を持つ)から T 型人間(幅広い知識も併せ持つ)を目指せ。どこの世界でも通用するような人間になりたいと思った。
- ・そのために、「技術士」の資格取得をめざし、31 歳で取得できた。
- ・望めるなら II (パイ) 型(二つ以上の専門を持つ)人間を目指し、色々経験して欲しい。

2. 知識と知恵、体験を増やしチャレンジを!

- ・知識と知恵を兼ね備えるために、観察眼と、好奇心をもつこと。
- ・まず、知力、これは知識と知恵の集合体である。このために体験が重要。基礎学力を付けて、多くの体験をして欲しい。
- ・体験は点であり、2 点で線、3 点で平面、4 点で立体になり、色々なものが見えてくる。
- ・「歴史を学ぼう」。例えば日露戦争ではロシアの立場を、また、ナポレオンの戦争、日中間の歴史を考える。そこから、それぞれの状況に応じた臨機応変の行動がとれるかの重要性に気づく。
- ・初対面の相手にどのような印象を与えているか、顔を見るだけで歩んできた道が大体分かる。
- ・語学を含め、何事にも前向きにチャレンジして欲しい。社会にでると、成功体験とともに失敗体験も、会社としても大きな損害にはなりにくい。
- ・face to face の付き合いができることが大切。自分の意見、ディベートできる訓練を!

3. 設定力と解決力により独創性、創造性を!

- ・問題を出してもらって回答するだけでなく、問題を作る「設定力」を養い、壁を越える力が重要。問題設定力が未来を開く。
- ・知恵、知識の上にある壁を越えないと、新しいこと(独創性、創造性)に繋がらない。短気だといわれてきた。人間も欠点はあるが、若いうちは直そうと努力することが人間形成で重要。

4. 「夢と気」、「やる気と元気」

- ・夢を描き、実現させることが大切で、これを積み重ねること。
- ・「気は気に通ずる」。相手に自分のオーラを与え、相手が評価してくれること。
- ・企業実習(インターン研修)の経験、生産現場での実習は役に立つ。
- ・世界地図は日本中心のものだけではない。ヨーロッパを中心にしたものやブラジルのものもある。「地球の裏側のブラジル」では現地で通用しない。固定概念は捨てて欲しい。

